

「森林環境教育・森林ESD」「緑の少年団」推進全国セミナー  
in 大阪

## 新学習指導要領に対応した 「森林ESD」の提案

### ～新教科書における森林・林業等の 記載内容等の紹介～

※ 各ページに記載のページ番号は、右記ガイドブックにおける当該説明内容の記載ページとなります。  
※ ガイドブックの入用をご希望の場合は、国土緑化推進機構 政策企画部までお問合せ下さい。

木俣 知大  
((公社)国土緑化推進機構 政策企画部 政策企画課長)  
E-mail: [kimata@green.or.jp](mailto:kimata@green.or.jp)



令和2年2月16日  
於：「近畿中国森林管理局」大会議室

新学習指導要領に対応した「森林ESD」の提案  
～新教科書における森林・林業等の記載内容等の紹介～



### I. 「森林ESD」の考え方

## 林野行政による森林環境教育等の取組経緯 (p.16～)

3

年代	取組	目的や特徴
1949年～	学校林	国土緑化運動、学校財産形成、勤労奉仕 (1999年以降は森林環境教育に近似した取組として促進)
1969年～	緑の少年団	国土緑化運動、青少年育成
1986年～	森林・林業教育	森林・林業の普及啓発、後継者育成 (1977年学習指導要領改訂で林業の記述が消滅、1982年解説書補訂、1989改訂で復活を経て本格化)
1999年～	森林環境教育	森林総合利用・体験学習・総合学習の促進 (後に、森林・林業教育等を融合した取組として呼称)
2006年～	木育	木材利用の普及啓発 (林野庁定義。北海道定義は森林環境教育等を含めた広義)

※ 平成28年度改訂「森林・林業基本計画」では、新たにESDの視点を考慮して、教育機関等と連携した「森林環境教育」の促進が明示。

## 教育分野で求められる能力形成を考慮して 「森林ESD」の提案 (p.16～)

4

分類	学力の志向 (学習指導要領改訂)	森林分野における多様な教育活動と重視する学力
in	意欲・態度 (H52/H1/H10改訂)	森林環境教育 → 学校林・緑の少年団 → 森林ESD
about	基礎的学力 (S33/S43改訂)	森林・林業教育 → 森林ESD
for	活用能力 (H20/H28改訂)	(森林ESD) → 森林ESD

➤ 今般の「学習指導要領」改訂を踏まえて、活用能力志向を重視しつつ、多様な教育課題に対応した「森林ESD」の取組を提案

# これまでの「森林環境教育」の実践と、これから求められる「森林ESD」<sup>5</sup>

※山下宏文氏(京都教育大学・教授)作成資料をもとに作成

分類	森林分野が重視する視点		教育分野で重視する視点	
in	<b>経験主義</b> (森林総合利用)	森林での体験活動 (森林総合利用) をすること目的	<b>資質・能力 主義</b> (森林を活用した 体験学習・調べ学習 ・問題解決型学習等 を通して、多様な 資質・能力を育む)	体験活動を通して 豊かな感性・人間性や コミュニケーション力・ 主体性等を育む
about	<b>知識主義</b> (普及啓発)	森林について 正しく知って貰う ことが目的		森林を題材にすることで 多面的・総合的な ものの見方や思考力、 持続性の考え方を学ぶ
for	<b>実践主義</b> (国民参加の 森林づくり)	森林で ボランティア活動を することが目的		森林の多面的機能の 受益者の立場から、 当事者意識を持ちながら、 課題を把握し、 解決策を考え、行動 する態度を育む

これまでの  
「森林環境教育」の実践  
(上記の何れかの実践活動としての取組が多い)



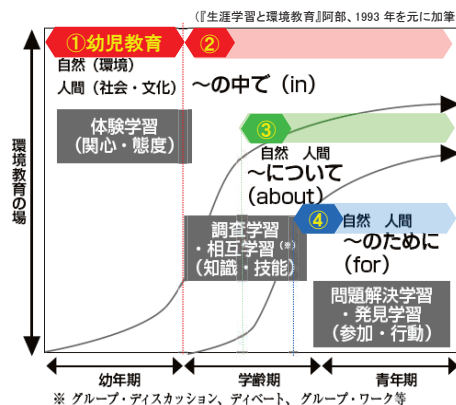
これから求められる  
「森林ESD」  
(多様な実践に教育視点を加味し、全体を統合)

⇒「森林分野」と「教育分野」が連携・協働して、双方の視点と価値を併せ持った活動を展開

## 幼児期と学齢期が一体となった段階的な「森林ESD」の推進

7

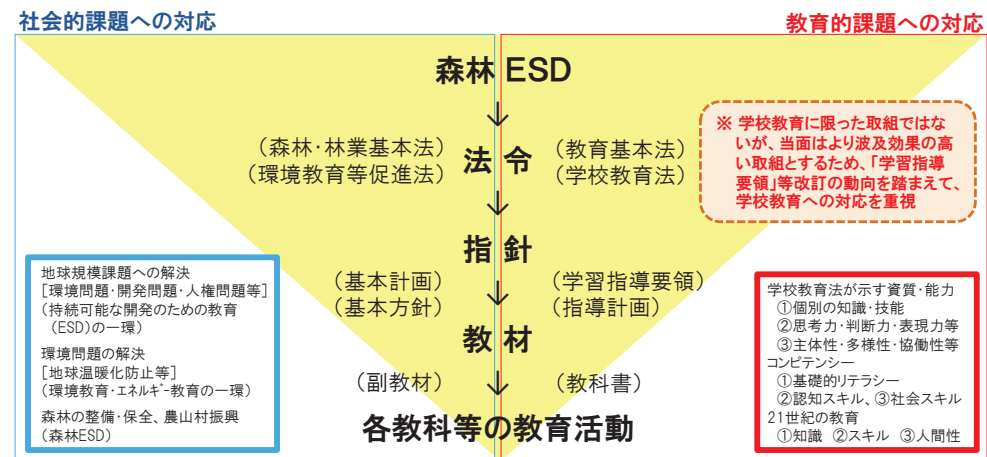
- 生涯学習や環境教育等の文脈においては、子どもの発達段階を鑑みて、3つのタイプの「アクティブ・ラーニング」(in[体験学習]、about[調査学習等]、for[問題解決学習等])の視点からの教育活動が促進されてきた。
- 「森林ESD」では、3つのタイプのアクティブ・ラーニングを重視するが、学齢期においては、学習指導要領等で教育内容が規定されていることや、体験活動を行うための場所や移動手段、指導者等の制約が多く、体験活動を一般的に行えるのは「特別活動」等に限られる。
- 他方、子どもの発達段階を鑑みると、体験活動は幼児期から行うことが適切であり、また「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等は「環境を通した教育・保育」を基本とする中で、in[体験学習]を促進する観点では親和性も高く、「森のようちえん」や「自然保育」への関心が高まっている状況。
- そこで、これまでの「森林環境教育」では、小学校における取組が中心的に展開されてきたが、「森林ESD」においては幼児期と学齢期(主に小学校)が一体となった取組を呼びかけていくこととする。



段階的な「森林ESD」の推進			
発達段階	in (体験学習)	about (調べ学習)	for (問題解決学習)
① 幼児教育	● (森林・自然保育等認定・認証園、森のようちえん等)		
② 小学校 低学年	● (森林ESD実践校・緑の少年団等) [in/体験学習]		
③ 小学校 中学年		● (森林ESD実践校・緑の少年団等) [about/調べ学習]	
④ 小学校 高学年	● (森林ESD実践校・緑の少年団等) [for/問題解決学習]		

## 「森林ESD」推進の基本的なスタンス ～森林分野と教育分野の双方の視点を併せ持った教育活動～

6



### 《「森林ESD」推進の基本的なスタンス》

- 森林分野と教育分野の双方の視点を併せ持った教育活動(教育支援活動)を促進
  - 教育的課題に対応した資質・能力の育成を考慮した上で、社会的課題のテーマ・題材として「森林・林業・木材産業・山村問題等」を扱う。
- 学校教育の枠組みを理解した上で、教育支援活動を促進
  - 「学習指導要領」「教科書」の教育内容や、学校の体制等を理解した上で、各教科・学年の単元に合わせた内容の教育支援活動を促進
- 一定の要件の整った一部の農山村地域の学校だけでなく、幅広い都市部の学校等でも実施できる取組を促進
  - 近隣に森林・里山がある農山村地域の学校、学校林・緑の少年団等がある学校、森林環境教育への理解がある校長・教職員等がいる学校等の一定の要件が整った一部の学校でしか普及しにくい教育活動(教育支援活動)だけでなく、幅広く都市部の学校においても実施できるように、教室・校庭等を活用して教科教育でできる取組や、特別活動(移動教室・林間学校等)の中でできる取組など、汎用性の高い取組も促進

## 新学習指導要領に対応した「森林ESD」の提案 ～新教科書における森林・林業等の記載内容等の紹介～



### Ⅱ. 「学習指導要領等」改訂に合わせた新教科書の記載内容



## 改訂「学習指導要領」(平成29年3月)のポイント

- 教育課程での学びを実社会・実生活に活かすことを見越して育むべく「資質・能力」を明確化した上で、一人一人の児童が持続可能な社会の創り手となることを見据えて、①学び方を「主体的・対話的で深い学び」の視点から改善し、②教育目標達成の観点から教科等横断的・地域資源活用を重視し、③地域社会との連携・協働を深めることとしている。  
※「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」  
児童が主体となり、自発的に考え、意見を交換し、情報を共有しながら深められる学び  
⇒ 体験する、観察する、調べる、まとめる、考える、対話する、選択・判断する、表現する

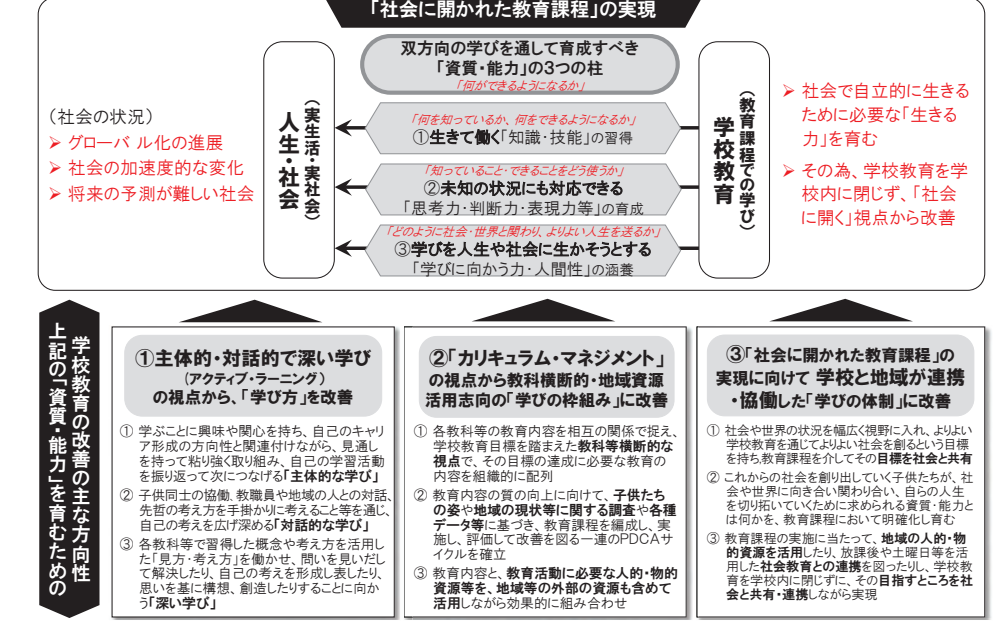
- 【総則】
- 教育は、(中略)次の目標を達成できるよう行われなければならない。  
4 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。  
5 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する(後略)
  - (前文)一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。
  - (前文)道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。(第1章 第1 2(2))
  - 児童が「生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視する」。(第1章 第3 1(5))
  - 学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、地域における世代を越えた交流の機会を設けること。(第1章 第5 関係)
  - 学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。(第1章 第6 3)

## 「学習指導要領」解説編(小学校社会科・第5学年)

- 2 内容
- (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、学習の問題を追及・解決する活動を通して、次の事項を身につけることができるよう指導する。
- ア 知識及び技能
- (イ) 森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解すること。
- イ 思考力、判断力、表現力等
- (イ) 森林資源の分布や働きなどに着目して、国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現すること。
- 3 内容の取扱い
- イの(イ)及び(ウ)については、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。
- 国民の一人として、国土の自然環境、国民の健康や生活環境の維持・改善に配慮した行動が求められるなど国民一人一人の協力の必要性に気付くようにすることが大切である。その際、一度破壊された環境を取り戻すためには長い時間と多くの人の努力や協力が必要であることに気付くようにするとともに、例えば、自分たちには何ができるかなど、自分たちに協力できることを考えたり選択・判断したりして、国土の環境保全への関心を高めるように配慮することが大切である。

## 【教育分野の動向①】 「学習指導要領」改訂の方向性と地域社会との関わり(イメージ)

※「地域学校協働活動」の促進については、「次世代の学校・地域」創生プラン(平成28年1月)において体制整備を提示  
中央教育審議会(幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の次期学習指導要領等の改善及び必要な方策等について)(平成28年12月21日)をもとに、国土緑化推進機構で作成



## 改訂「学習指導要領」(平成29年3月)のポイント ～森林・林業等に関連する事項～

【各教科等】		
教科	学年	記載されている内容(森林・林業等関連事項)
社会	3年	・身近な地域や市の様子
	4年	・飲料水の安定供給 ・自然災害から人々を守る活動 (災害を自然災害と明示)
	5年	・国土の自然環境と国民生活 (取扱いの内容が本文へ) ・自然災害から国土を保全し国民生活を守るための対策 ・森林の育成や保護に従事している人々の役割 ・森林資源の分布や働きと役割
	全般	(目標に「(自然を愛する心情や)主体的に問題解決しようとする態度を養う。」が追加)
	3年	・身の回りの生物と環境
理科	4年	・動物の活動や植物の成長と環境との関わり
	5年	・流れる水の働きと土地の変化 (台風と降雨に伴う自然災害についても触れることが追記)
	6年	・植物の養分と水の通り道、生物と環境
	生活	1～2年 ・地域に愛着を持ち、自然を大切にすること(児童が具体的な活動や体験に基づく活動とすることを追記)
教科	学年	記載されている内容(森林・林業等関連事項)
図画工作	1～2年	・造形的な活動を思いつくこと、身近な材料や用具にた
	3～4年	・身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思いつくこと、材料や用具を適切に扱うこと
	5～6年	・材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思いつくこと、表現方法に応じて材料や用具を活用すること(表現方法に応じて材料等を選ぶこと等が追記)
家庭	5～6年	・自分生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解すること。 (環境に配慮した生活についての物の使い方を考え、工夫することが追記)
	道徳	1～2年 ・身近な自然に親しみ動植物に優しい心で接する
	3～4年	・自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切に
	5～6年	・自然の偉大さを知り、自然環境を大切に
	総合的な学習の時間	・自然体験などの体験活動を積極的に取り入れる。
	特別活動(学校行事)	・自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむ(体験的な活動を通して資質・能力を育むことが追記)

13

昔の暮らし  
の道具

## 水の循環

各都道府県内  
の特色ある  
地域の学習

国土の保全  
森林と生活

分類	教科	学年	学習指導要領	教科書									
				単元	項目	要素	東	大	学	教	出	信	容
【2】	理科	第4学年	(2) 季節と生物 身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらと関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。(動物、植物それぞれ2種以上扱う) ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けることができるよう指導する。暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。 イ 身近な動物や植物について追求する中で、既習の内容や生活経験を基に、季節ごとの動物の活動や植物の成長の変化について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。 イ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。	(春)あたたかくなると	木のようす	サクラ イチヨウ アジサイ アジサイ	○	○	○	○	○	○	○
				(夏)暑くなると	木のようす	サクラ イチヨウ カエデ アジサイ	○	○	○	○	○	○	○
				(秋)	木のようす	サクラ イチヨウ いろいろなどんぐり カエデ	○	○	○	○	○	○	○
				(冬)寒さの中でも	木のようす	サクラ イチヨウ 冬芽 アジサイ	○	○	○	○	○	○	○
				生き物の一年	まとめてみよう	サクラ トナリキ	○	○	○	○	○	○	○
				資料理科のたまご	季節の名前一英語		○						
				雨水のゆくえ	水のすがた	しみこみやすい土、しみこみにくい土			○	○	○	○	○
						山と海、川の絵や写真	○	○	○	○	○	○	○
						自然の中で水が溜まっているところはどこ?	○						

季節と植物

雨水の行方

### 「小学校教科書」教科書分析 まとめ①

#### ～各教科・学年の教科書における森林に関する内容～

分類	区分	関連度	適用
【1】	学習指導要領で直接的に森林等について学ぶことが記載されているもの	◎	社会5年「私たちの生活と森林」：(日本の森林)(森林の手入れ)(林業)(森林を守る活動)(森林と林業の現実をとらえる)(森林のはたらき)
【2】	学習指導要領では森林等について学ぶことは記載されていないが、すべての教科書で森林等が教材として扱われているもの	◎	社会4年「土地の特色を生かした地域」(豊かな自然・森林を生かす)(※) 社会6年「地球環境とともに生きる」：(気象変動・森林減少) 理科4年「季節と生き物春夏秋冬」：(サクラの観察) 理科6年「生きもののくらしと環境」「地球に生きる」 生活1、2年「あきをたのしもう」 道徳1～6年全単元(生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)
【2'】	学習指導要領に対応する教科書はないが、学習指導要領の記載から、森林等について学習する機会を設定できるもの。	◎	総合的な学習「環境学習としての森林・林業体験など」 特別活動「集団宿泊学習における森林・林業体験など」

分類	教科	学年	学習指導要領	教科書									
				単元	項目	要素	東	大	学	教	出	信	容
【3】	理科	第6学年	(2) 植物の養分と水の通り道 植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (7) 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。 (8) 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。 イ 植物の体につくると働きについて追求する中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。	植物のからだのはたらき	水を吸い上げるから出す	蒸散利用の緑のカートン		○		○		○	
				植物のからだのはたらき	蒸散のかかり	蒸散利用の緑のカートン							○
【2】	理科	第6学年	(3) 生物と環境 生物と環境について、動物や植物の生活を観察したり資料を活用したりする中で、生物と環境の関わりに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けるよう指導する。 ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (7) 生物は、水及び空気を通して周囲の環境と関わって生きていること。 (8) 生物の体には、食う食われるという関係があること。 (9) 人は、環境と関わり、工夫して生活していること。 イ 生物と環境について追求する中で、生物と環境との関わりについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。	生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	
				生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	
				生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	
				生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	
				生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	
				生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	
				生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	
				生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	
				生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	
				生きもののくらしと環境	食べ物をとおしたかわり	「食べる」「食べられる」の関係食物連鎖	○	○	○	○	○	○	

植物の働き

生物と環境

### 「小学校教科書」教科書分析 まとめ②

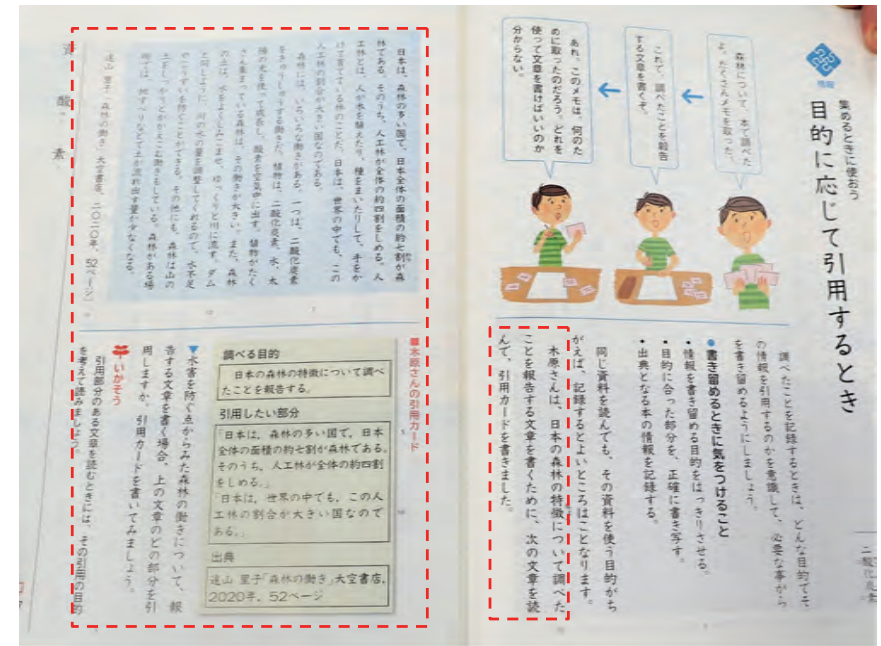
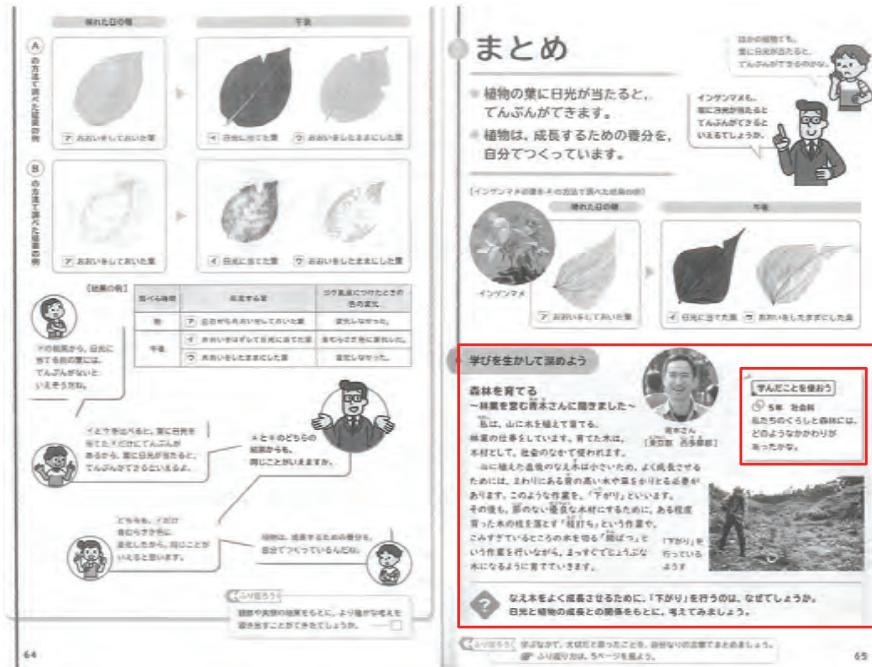
#### ～各教科・学年の教科書における森林に関する内容～

【3】	学習指導要領に記載されている内容を学習するため、扱い方により森林等を教材として利用できるもの或いは一部の教科書で森林等が取り扱われているもの	○	理科3年「春の自然にとびだそう」「昆虫をしらべよう」「植物の形」 理科4年「雨水のゆくえ」 理科5年「植物の発芽と成長」 生活1、2年「ふゆをたのしもう」「きせつのおくりもの」「地域」「生きものをかう」
【4】	学習指導要領に記載されている内容を学習するため、全てまたは一部の教科書において森林等が要素として扱われているもの	△	国語1～6年全単元 3年「登場人物について話し合おう」(モチモチの木)など 社会3年「変わる道具と暮らし」：(昔の道具と人々の暮らし)(※) 社会6年「天皇中心の国作り」：(木造建築) 算数1年「たしざんをみつけられるかな」など 算数3年「いろいろな長さをはかる」(幹のまわりをはかる) 算数4年「がい数」 算数5年「直径をもとめる」「面積を求める」 算数6年「縮図」(木の高さを求める)「表やグラフを用いて面積を求める」(日本と世界の森林面積の比較)：啓林館 理科3年「ものの体積と重さ」(キリ・ヒノキ・ケヤキ)啓林館「ゴムの力のはたらき」啓林館 理科6年「ものの燃え方と空気」(二酸化炭素増加と地球の気温)：教育出版「地層」(ブナの葉の化石)教育出版・啓林館 図工1、2年「自然物を基に思いをつくる」 図工3、4年「材料や用具をえらびあわす」 図工5、6年「造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するか考える」 家庭5～6年「上手にくらそう」「持続可能な社会を生きる」開隆 外国語6年「地球の生き物についてたえよう」「環境について考えよう」「どんなことを言っているか聞こう」「クイズを作ろう」









「目的に応じて引用するとき」の事例として「森林について調べた場合」を例示

## 「森林ESD」の教科横断的な学習の参考教材

- ・校庭や公園・里山の身近な樹木を用いて、子どもたちが社会化+理科の教科横断的な学習ができるように、林野庁林野図書資料館(国会図書館支部)と連携して「みちかな樹木のえほん」を制作
- ・学校の校庭等にある代表的樹種30種の樹木について、「生きものとのつながり(生物多様性の保全/「理科」的要素)」と、「暮らしとの繋がり(持続可能な利用/「社会科」的要素)」を学べるような内容として整理

新学習指導要領に対応した「森林ESD」の提案  
～新教科書における森林・林業等の記載内容等の紹介～Ⅲ. 地域と学校が連携した  
「森林ESD」の推進体制のあり方

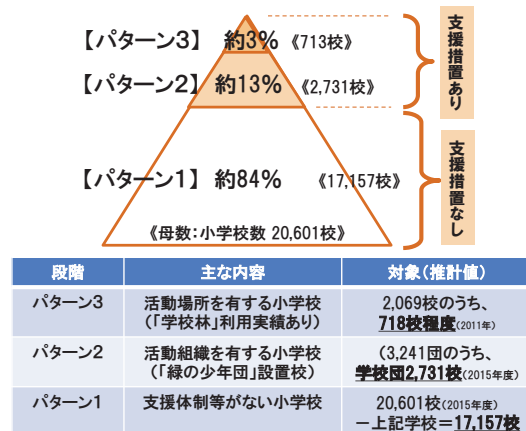
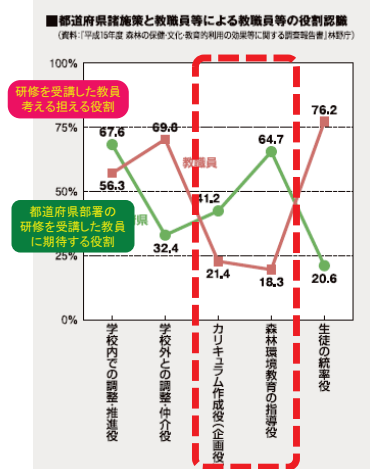


(1)対象が限定的

- 「森林環境教育」等は、森林での体験・学習活動の実施を重視  
→ 近隣に森林・里山がある農山村地域や学校林等がある学校、「総合的な学習の時間」等を活用した取組に熱心な校長や教職員等がいる学校等では一定の取組が促進。  
⇒ 都市部の学校では支援策も限定的な状況。  
例えば、「学校林」「緑の少年団」による支援措置がある学校は、全体の約16%程度（推計値：※）  
※あくまで、学校林と緑の少年団が重複がないと仮定した場合の推計値

(2)担い手が不明瞭

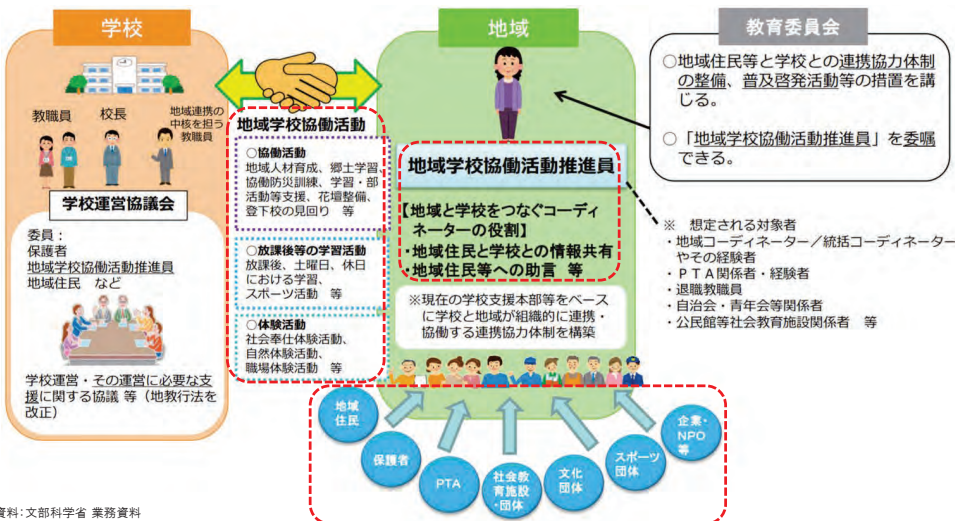
- 多くの都道府県が教職員向け研修を行っているが、都道府県サイトには研修を受講した教職員に指導役を担うことを期待するが、教職員側は指導役を担うことは難しいと捉えるなどのギャップがある。  
→ 森林分野に限らず、学校教育において環境教育を促進する際には、第三者を派遣する仕組み等を構築することが重要と指摘されている。



「地域学校協働活動」推進の担い手として、「地域学校協働推進員」の配置を規定

- 幅広く地域住民や保護者、社会教育施設・団体、企業・NPO等が、学校と連携・協働して、協働活動、放課後等の学習活動、体験活動の「地域学校協働活動」を促進していくために、社会教育法を改正して、同活動に関する連携協力体制の整備や「地域学校協働活動推進員」に関する規定が整備。

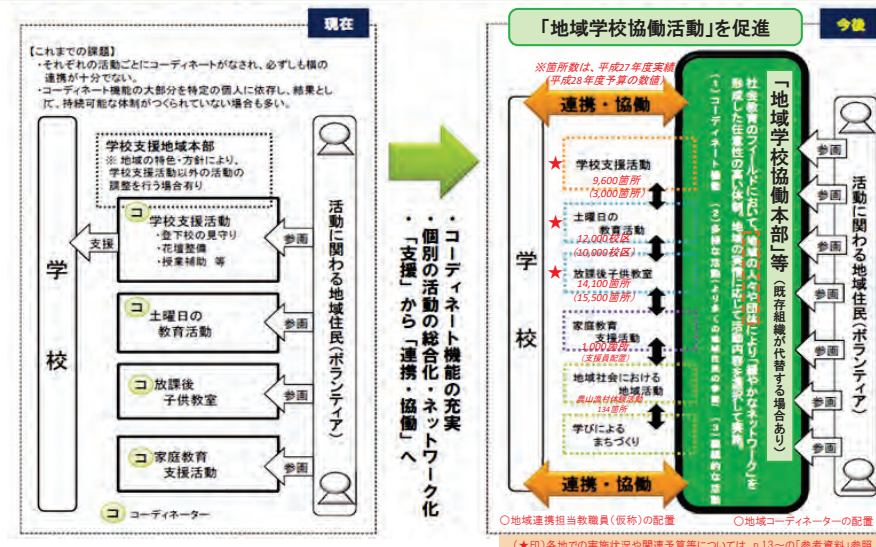
【地域学校協働活動のイメージ】



地域社会と学校との連携・協働の促進に向けた取組を促進

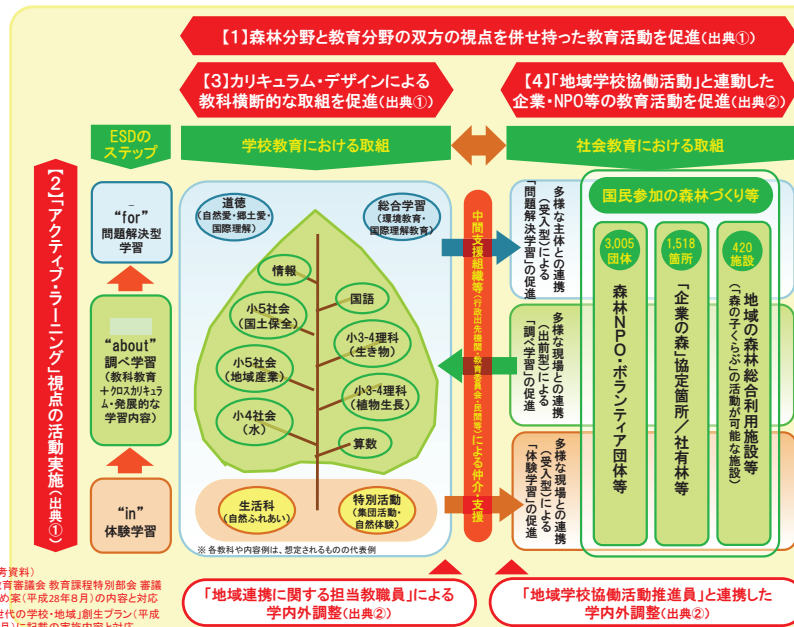
（中央教育審議会答申「新しい時代の教育と地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（平成27年12月21日）を元に、『「次世代の学校・地域」創生プラン」等の文部科学省関連資料を参考に加筆）

学校や社会教育施設において、「地域の人々や団体」（多様な専門人材、高齢者、若者、PTA・青少年団体、企業・NPO等）の参画を得て、多様な「地域学校協働活動」（郷土学習・体験活動・地域行事・学びによるまちづくり等）を促進。



「森林ESD」の4つのポイントと、促進の仕組み(イメージ) (p.30)

- 【1】森林分野と教育分野の双方の視点を併せ持ち(P.5対応)、【2】「アクティブ・ラーニング」の視点(P.3対応・以下同)、【3】教科横断的な視点を持った教育活動、【4】「地域学校協働活動」と運動した企業・NPO等の教育活動を促進



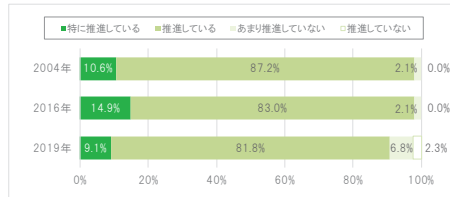


## 【1】都道府県による「森林環境教育等」の推進状況①

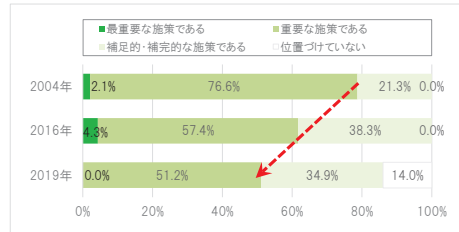
- （公社）国土緑化推進機構では、令和元年度林野庁補助事業により、「都道府県による森林環境教育等の推進状況 実態調査」を実施
- 同調査では、都道府県における推進状況は、15年前と比較しても大きく変わらないが、都道府県職員による直轄（林業普及事業・出先機関）から、府県版森林環境税等を活用したNPO等による取組の支援へシフトしている状況にあった。

### (1) 森林環境教育等の実施概要

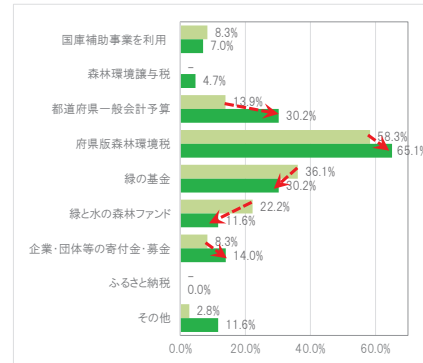
#### ① 都道府県での「森林環境教育等」の推進状況



#### ④ 林業普及事業での「森林環境教育等」の位置づけ



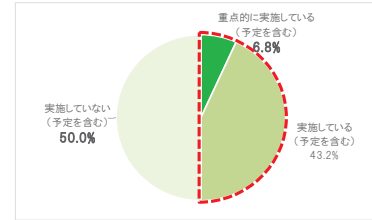
#### ③ 各種施策の財源



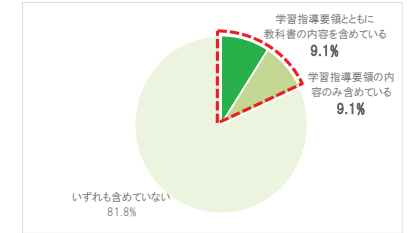
33

## 【1】都道府県による「森林環境教育等」の推進状況②

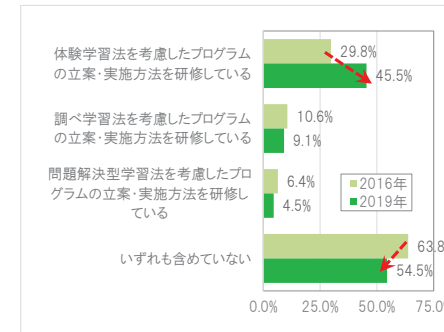
#### ⑥-1 市民・NPO等を対象とした指導者養成研修



#### ⑥-2 研修内容に指導要領・教科書の紹介の状況



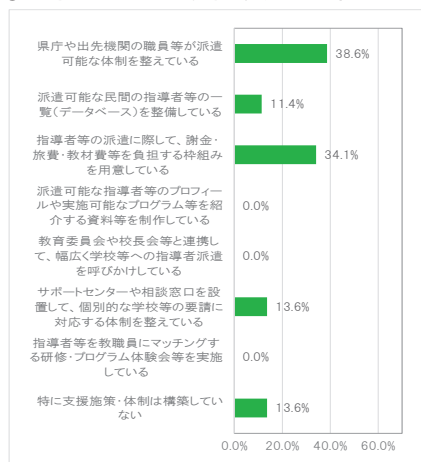
#### ⑥-3 研修内容への「主体的・対話的で深い学び」を意識したプログラムの立案・実施方法等の研修状況



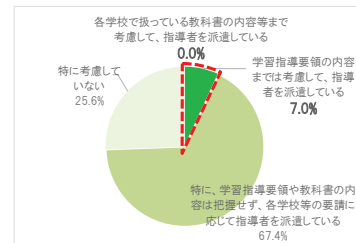
34

## 【1】都道府県による「森林環境教育等」の推進状況④

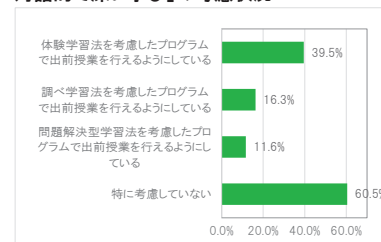
#### ⑨-1 学校等への出前授業の実施・促進策



#### ⑨-2 出前授業等の「学習指導要領・教科書」の考慮状況



#### ⑨-3 出前授業等の実施プログラムにおける「主体的・対話的で深い学び」の考慮状況

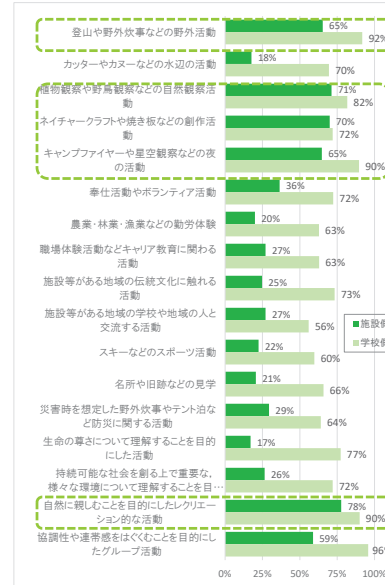


35

## 【2】「青少年教育関係施設・森林総合利用施設」における「森林環境教育等」の推進状況①

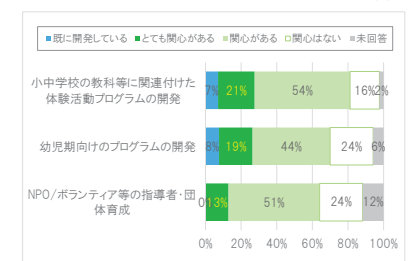
- 国土緑化推進機構では、「青少年教育関係施設・森林総合利用施設における「森林環境教育等」の推進状況」実態・意向調査を実施
- 同調査（暫定版／170施設回答）では、各種実態調査に加えて、今後の「森林サービス産業」関連の取組の実施以降についても調査

#### ② 学校向けに提供可能なプログラムと学校側のニーズ

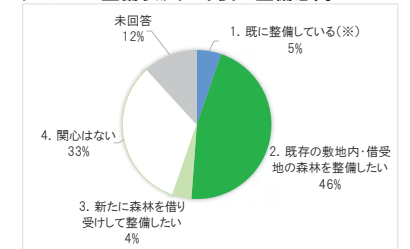


※自然体験系は一定水準で整備されているが、社会体験系は限定的な状況

#### ⑤ プログラム等の開発状況／今後の開発への意向



#### ⑥ フィールドの整備状況／今後の整備意向



36

## 都道府県・市町村レベルで構築すべき、5つの「森林ESD」推進の仕組み

(教育関係機関との意見交換、都道府県等での意見交換会、先進事例・アンケート等から見えてきたもの)

### (1). 各教科・単元等に合わせた、地域の実情に合わせた「プログラム開発」

- ① 各教科は、ガイドブックp106～に対応した単元毎に、1～2時限の出前型のプログラム
- ② 体験活動は、主に「特別活動」の集団宿泊的行事(移動教室・林間学校等)が行われる「青少年教育施設」等の施設周辺でのプログラム(フィールド・指導者・財源等を含む)

### (2). 学校教育の枠組みを理解した「指導者養成講座」の開催

((1)の指導が行えるNPO等の指導者養成。各教科等は学校周辺のNPO、特別活動は施設等のNPOという手もあるが、一体での実施がより有効。(2)→(1)で行うのも一方案)

### (3). 学校への「出前授業」、青少年教育施設での「体験活動」受入の仕組みづくり

(財源・フィールドをセットにした指導者派遣・体験活動受入の汎用的な仕組み。市町村教育委員会と連携が有効。「出前授業」は「地域学校協働活動」と連動することが有効)

### (4). 教員向け「パンフレット」等の作成・教育関係部署からの紹介

(指導者派遣の仕組みと、各教科・単元等と対応表(1)と担い手(2)、活用できる助成金等を記したパンフレット等を整理し、都道府県教育委員会→市町村教育委員会→各学校で(3)を配布。校長会等で説明機会を設けることも有効)

### (5). 教員向け研修／プログラム体験・マッチング等の機会の設定

(夏季休暇などの教員が比較的研修に参加しやすい時期等に、(1)の(2)による体験会実施・指導者との顔合わせの機会の設定。教育委員会等と連携して研修、教員養成大学等と連携した免許更新研修等として実施することも有効)

## 学校への「出前授業」& 青少年教育施設等での「体験活動」の仕組みづくり(案) ～各県・緑推・少年団連盟と教員養成大学等・教育委員会・青少年教育施設等が連携した体制イメージ～

